

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 先崎 彰容

研究課題		近代日本思想史、特に戦後思想家の「明治」観の研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	平成30年度の研究は、次のような計画に基づいて行われた。本年度の研究計画は、戦後思想家の言説を、特にその「明治」観に絞り、比較考察することにあつた。具体的には、丸山真男と江藤淳を中心として、それぞれの思想家がどのような「明治」イメージを抱いていたのか、研究を進めることを目指した。このような研究活動を行う背景には、1990年代以降、顕著になりつつある日本の成長戦略の限界、あるいは戦後前提となっていた日本国民全体を覆っていた価値観の限界、といった状況をふまえて、明治以来の150年という広い視野から、「危機の時代に対応する」糧を得ようと試みたからである。
	研究成果	次年度に対する反省点を以下、簡潔に述べることにしよう。まず研究成果として著作『維新と敗戦』（晶文社）を挙げることができる。本書では、幕末の水戸学から福沢諭吉を経由して、江藤淳に至るまで、「維新」と「敗戦」をキーワードに過渡期をどうとらえるのかを考察した作品である。いわゆる学術的研究については、別途、準備されている。具体的には、ミネルヴァ書房から刊行予定の『戦後日本思想とナショナリズム—江藤淳論』を現在、書き進めている最中であり、この刊行をもって研究の証明を行いたいと考えている。 反省点として、学術研究の著作執筆時間と講演・書評・雑誌原稿等に忙殺された関係から、学会発表の時間をつくることができず研究会等の小さな発表のみに終わったことから、次年度は学会発表にも積極的にかかわりたいと考えている。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①著書：先崎彰容『維新と敗戦』、晶文社、2018年8月30日。
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	①講演会：明治神宮百五十年記念大会『百五十年目の明治維新』、明治神宮招待講演、平成30年10月22日、明治神宮。